

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490400035		
法人名	社会福祉法人 光薫福祉会		
事業所名	グループホーム ビハーク豆田		
所在地	大分県日田市港町436-1		
自己評価作成日	平成23年7月3日	評価結果市町村受理日	平成23年10月12日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年8月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・グループホーム内にて、自然と利用者同士が励ましあい補い合う等、自ずと“家族”関係が出来、一人一人が家族として役割を持つようになりました。その中で私達はあえて必要以上の支援は行わず、出来るだけ利用者同士にて悩み、相談し解決していただくよう努めています。
 ・職員育成として内部研修の他に、市内外にて構成しているグループホーム連絡会に参加し、積極的に交流、外部研修を受けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1、建物が地域の風情に馴染み、ゆったりとした落ち着いた雰囲気、室内も調和のとれた過ごしやすい空間となる工夫がみられる。
 2、職員は積極的に研修に参加し、地域の他の事業所や行政と共にケアの向上に取り組んでいる。
 3、利用者本位の実践へ繋がるよう記録を工夫し、本人の思いを毎日把握することで、好きなこと・好きな食べ物・行きたい所など、個別の要望に沿った支援を行っている。
 4、地域と密着した関係づくりの具体的な活動や、ホームの生活の中に地域を巻き込む活動をしている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の意向、気持ちを第一に考え心身共に快適に生活出来る様心掛けている。事業所理念も職員間で唱和し、また事業所各フロアに掲示する事で実践できるよう努めている。	管理者を中心に職員間で理念を共有し、実践に向けての話し合いをしている。地域と密着した関係づくりについても具体的に取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣保育園と開設初年度より交流しており、運動会、納涼祭に参加させて頂いている。また、地域行事には出来る範囲参加させて頂き、日常的に地域の方と気軽に会話出来る関係を築いている。	自治会に加入し、地域の一員として活動している。年4回発行する広報紙は、地域で回覧している。地域活動や学校行事への参加、児童との交流を行っており、また、ホームで地元住民の特技を活かした活動なども実施している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小中学校の社会学習の受入れを行っており、年二回地域住民を対象とした介護教室開催している。また、日田市認知症支援体制づくりプロジェクトに参加しており、認知症啓発の寸劇を他の事業所職員と合同で行っており、社協や各方面の公民館にて活動している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月間の実施行事、職員会議内容や各委員会の取り組み、ヒヤリハット、事故報告など全ての報告を行っており、市職員や包括職員よりの確かな助言を頂いている。また、外部公表結果やサービス公表結果内容も会議内で説明している。	定期的実施している。会議のテーマは家族アンケートで得られた意見をもとに決め、毎回充実した内容となるよう努力をしている。防災訓練を会議の日に開き、実態を見てもらっている。各メンバーは積極的に意見を出し、サービスの向上に繋いでいる。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政担当課との密接な連携は常に心掛けており、サービス上の相談には明確な指針も頂いている。また、定期的と同業者との会議、外部研修にも参加してもらい、一緒にサービス向上を目指している。	市担当者で連携して市内のグループホーム事業者と研修を行っている。また、現状についての相談も密に行いアドバイスを受けている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関、居室等施錠せずいつでも外出できる環境になっている。夜間は防犯上19時30～8時30分まで正面玄関の施錠はしている。職員教育として内部研修や外部研修でも身体抑制について議題を設定し共有認識を図っている。	課題意識が強く、拘束をしないケアについて職員間で学び、話し合っている。研修会などで他の事業所から意見を聞き、施錠をしない危険を防ぐ工夫として、観葉植物や家具の配置・感知して鳴く小鳥など様々な取り組みをしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で取り上げ、日常の業務の中でも、申し送り等で日々利用者を観察し身体及び精神状態を把握している。外部研修でも高齢者虐待防止法に関する内容を学んだ。		

事業者名: グループホーム ビハール豆田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、社協主催にて公証人より後見人研修が実施されていたので、それを元に必要と思われる方には後見人の説明をさせて頂いている。しかし、知識不足もあるので今後も事業所全体で学習していく必要が有る。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に、実際ご本人様、家族に施設に見学に来てもらい、施設の設備、雰囲気を見てもらうよう全ての方に勤めている。契約の段階でも時間を掛け重要説明事項説明、料金説明を行っている。重度化や看取りについても指針を説明しほぼ全員の方に同意を得ている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員を通じて、利用者の相談及び利用者・家族の立場に立った意見を参考にしている。また、毎年家族にサービスアンケート郵送し無記名にて返信して頂き、サービス内容の評価を行なって貰っている。アンケート内容や要望等は翌月職員会議にて議論し、運営推進会議等にて報告している。	家族アンケートにより意見や要望を引き出し、職員会議や推進会議で話合って反映している。利用者に対しては、介護相談員が月に2回来所し、ゆっくりと話を聞いてもらい、食事についても要望を聞き、献立を作っている。毎月赤飯の日があり、利用者に好評を得ている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や管理者との個別面談にて、要望や意見を聞くようにしており、徐々に全職員で統一した意識を持ち始めている。	職員会議や日常の支援の中で職員は意見を積極的に出している。また、個人面談が年2回あり、職員の思いや個人目標を話し合うことで、職員全体の方向性がまとまってきている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、個々の実績や努力を十分考慮した上で賞与は反映している。又、管理者も現場に出て、利用者及び職員と業務を行っている。個別でも、職員に上半期、下半期に分けて目標を持って業務に取り組んでもらい、管理者が目標達成確認を一緒に行っており、今後も常に職員のメンタルケア等を意識しながら事業に取り組みたい。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々にケア目標を掲げてもらい、管理者との個別面談時に目標の達成状況及び自己評価を行なっている。新人職員にはエルダー制度を取り入れ、職員レベルの均等化を図り、外部研修、内部研修も積極的に参加してもらっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日田玖珠グループホーム協議会にて常に情報交換及びサービス困難時の解決指針を頂いている。また、職員育成を目的とした研修企画・開催や職員間の相互研修実施を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービス利用相談の段階より、相手方の相談内容を傾聴し親身に受け止めている。また、サービス開始に繋がっても常に、生活状況を把握する様、日頃からコミュニケーションを取り、本人の求めている不安を理解しようと努めている。</p>			
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>相談内容をゆっくり聞くことによって、相手方の今までの状況及び不安や介護の負担感などを受け止めるように努めている。</p>			
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時、本人、家族が必要としているサービスが出来るように努め、必要に応じ、地域のケアマネージャー及び、地域包括支援センター等他事業所に相談し連携も行っている。</p>			
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本人の思い、不安、喜びなど知る事に努め、お互い暮らしの中で分かち合い、和やかな生活が送れる様に常日頃、コミュニケーションを取っている。また、利用者側より積極的に食事準備、洗濯物整理して頂き協働しながら生活している。</p>			
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>日頃の様子を書きとめ、市内在住家族には毎月自宅訪問し、近状報告と1ヶ月分の日々の記録を手渡している。家族による外出・外泊支援も入居当初より断然多くなっている利用者も多く、家族との潤滑油になるよう心掛けている。</p>			
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの友人、クリーニング店、美容室、習い事、教会のミサ等、特に介護サービスを受けることで途切れない様、家族にも説明、理解して頂き地域との関わりや馴染みの関係は継続している。</p>	<p>馴染みの美容院の利用や、今まで通っていた習い事を続けられるよう支援している。地域の民生委員がお花の指導に来てくれ、馴染みの関係ができています。ご近所のお接待に呼ばれて食事をいただいている。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>気が合う方、合わない方がいるのは当然の事であって同じ生活の場を共にすることは現に難しいが、職員側がどれだけ円満な関係に支援し、さりげないサポートが出来るように心がけている。又、食事やお茶の時間には、職員も一緒に参加し様々な会話やコミュニケーションが出来るようにしている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居となり他の事業所に移られた方にも、利用者と一緒に遊びに行ったりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より、利用者一人一人の思いは何か、今後どのような生活を望まれているのか、家族、担当職員と共に考え実行できるよう努めている。意思疎通が難しい方には、家族より深く以前の性格、趣味等を聞いたうえで支援者全員で協議し対応している。	長年馴染んだ生活や好み、現在の状況、好きなこと嫌いなこと、本人の希望など具体的に聞きとっている。本人の希望は毎日の個別記録に記入欄を設け、日々の生活の中からよく観察して把握している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴や以前のライフスタイルは、利用者の人生そのものであり重要視しなければならない事でもあるので、本人、家族との会話の中で知りえた情報は、職員間で共有しプラン、支援に反映している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の有する力を生かし、本人がまだ持っている可能性を諦めず安心して日常生活が過ごせるよう日々の記録をし健康、精神状態等把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子観察、会話の中での言葉、家族の思い、職員の情報等を把握した上でプラン作成に反映している。	毎日の記録の中で実施状況の確認と評価を行い、利用者の思いが把握がされている。担当者を中心に当日出勤者でカンファレンスを開き、計画を作成している。家族には計画決定後報告している。	介護計画作成時に家族と話し合い、家族の意見を積極的に聞いて反映することを期待する。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録にその日の行動、言動及び経過が分かるよう記録している。また、食事量、水分量、服薬確認、排泄状況の確認を行い職員全員で日々の情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望等を聞き入れ、受診、一時帰宅の付き添い、美容院や親族のお見舞い選挙投票支援など柔軟に支援している。		

事業者名: グループホーム ビハーラ豆田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生け花教室、工作教室等のボランティアは定期的に来てもらっている。また、校区内の小中学校にもボランティアや体験学習の依頼をしており、近年学生の体験学習が増えている。また、日田消防署に毎年、防災・救命訓練の指導を受けている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用以前より診察を受けていた病院、診療所等、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。病院受診も、基本家族同行となっているが不可能時には職員が代行で行っている。また、心身状況及び病状の程度によっては往診可能な診療所を紹介している。	出来る限り馴染みのかかりつけ医となるよう配慮している。家族の付添時は日頃の状況を書類で渡し、ホームと医療機関が連携して、現状に即した支援となるようにしている。ケースによっては定期的な往診で病状の安定を図っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康管理及び異変時は、看護職員の指示にて行っている。記録も熱計表、看護記録にその日の言動、経過、食量など細かく記入し受診の際は主治医に記録提供し情報共有している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院側のMSW,担当NSと密に連絡を取り必要に応じてPT,OTとの情報交換もおこなっている。また、退院時にもリロゲーションダメージを最小限に抑えられるよう退院支援をしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り・重度化指針を利用者家族に説明しており、医療面でも往診可能な診療所と協力関係に有る。昨年、始めて看取り介護に近い支援をさせて頂いたが、その際家族、医療関係者、事業所職員の連携もあり本人の意志に添える看取りケアが出来たと思う。	契約時、ホームとして可能なターミナル支援内容を伝えて、必要に応じて随時話し合いをもっている。家族や本人の要望を把握し、家族が納得できる見送りができるよう、家族の支援も行っている。実際に看取りを経験し、担当医や職員で話合っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年消防署、救急救命士より心肺蘇生法、異物除去法、AED操作法などの講習を受講している。又、日勤帯、夜間帯と分けて緊急マニュアルを作成、整備し周知徹底を図っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回、日勤帯、夜間帯を想定した避難訓練を行っている。消防署にも年一回は立ち会ってもらい、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方など利用者を含めて教えて頂いた。又、非常食料、備品を備蓄している。	定期的に避難訓練を実施し、運営推進会議の時にも行い、検証をしている。夜間想定での訓練や、隣接した広い空地を活用し、2階からの救助訓練を試みたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	性格や個性、思いが違うのは当たり前の中で、充分言葉遣い、不適切ケアには注意している。また、事業所内にて定期的にサービス内容の自己評価を行ないケア向上に努めている。	個々を尊重したケアであったか、プライバシーを大切にされたか自己評価を行い、不適切なケアを防いでいる。また職員間で話し合い、改善に努めている。言葉使いは優しく穏やかで、ゆとりのある対応である。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中で、自然と要望を読み取り介護記録に記入する事で、全職員が把握し希望に副うよう努めている。日頃の食事メニューも定期的に利用者に決めてもらう。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、細かに時間を区切った過ごし方はしていない。中には、余暇時間に頭の計算、体操、レク等行っている方、一方は、利用者同士で談話、洗濯物干し、調理の手伝い等様々である。又、全ての希望には沿うことは出来ないが出来る範囲「外出したい」と要望があればドライブや散策等行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は施設では行わず、各々行きつけの美容室に行っている。服装も、個人担当職員が本人と共に買い物に行き、季節に応じた服装を選んでいる。化粧が自力で出来ない方にも美颜支援を行ない何時までもお洒落を楽しんで頂いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に調理、盛り付け、食事、片付け等を通して“食”に対する考えや希望を聞きだす機会をもうけている。また、季節に応じて畑の野菜を食材として使う時も有る。	食べたいものを聞いて参考にし、食事委員会で献立を決めている。食事の準備や片づけ・盛り付けのできることをやっている。職員と同じテーブルで楽しく会話をしながら、家庭的な雰囲気である。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食ごと水分も随時記録を行い、水分も多く摂取できるよう支援し、日常の中でも、テーブルにお茶をセッティングいつでも自己で水分補給できるよう環境作りもしている。食事内容も野菜を多く摂れる献立を考え、検査実施、月1回体重測定も行い、管理している。食事量が少なくパン類を好まれる方にはパンの提供も行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力にて出ている範囲は各自で行なって頂き、不足分を援助している。週一回は専用薬剤を使用し義歯洗浄を行っている。		

事業者名: グループホーム ビハーク豆田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を作成し排泄時間、便有無を把握できるようにしており、排尿排便のサイクル等観察しており利用者一人一人に適した対応をしている。肌着に対しても出来るだけ紙パンツ等を使用しない様、状況に応じて失禁パンツやパットを使用して自尊心の配慮を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、できるだけオムツを使わないでトイレに行くよう支援している。利用者のサインや声を見逃さず、すぐに対応している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便有無の把握と共に水分補給、食事内容にも留意し繊維類を多く取ってもらい又、牛乳、野菜ジュース、青汁、プルーン等も提供している。気候が良い日は、散策等体を動かす事も意欲的に取り組んでいる。必要時、処方された緩下剤を使用している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日午前・午後を実施。時には気の合う利用者同士入浴して頂いている。石鹸やシャンプー等本人の好みのものを使用している方も多数いる。また、同姓者による介助者の希望があれば対応している。	2日に1回の入浴であるが、毎日入浴も可能である。入浴が楽しい活動となるよう工夫している。状況に応じた清潔の保持もやっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息時にはなるべく静かに短時間ではあるが気持ちよく眠れる様努めている。夜間も各自就寝時間は違い、居室でゆっくり過ごす方、デイルームにて皆と一緒に談話やテレビ鑑賞して休む等生活リズムを考え支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別ケース記録に内服薬の情報提供書をファイルし、確認できている状態にしている。内服薬変更時には看護職員より介護職員に申し送りがあり情報共有している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや洗濯、家庭菜園、漬物作り等利用者の経験や知識を発揮できる環境作りや支援を行なっている。特に食事の時間になれば自らすすんで調理の手伝いや食器洗い等して頂いている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	常日頃より、散策や外出ドライブなど行っている。短時間だが自宅へ帰宅され園庭の花等事業所に持ち帰り飾っている。また、職員との個別外出も実施しており半日かけ遠方にドライブに行かれたり、レストランやバイキング料理を楽しまれる方もいる。	行きたい所・食べたい所へ要望に応じて出かけ、毎月個別支援も実施している。近所への散歩やベランダへ自由に出て、好きなように過ごしている。座っている位置からご近所の情景が眺められ、通勤通学風景など日常の生活を目にできる環境である。	

事業者名: グループホーム ビハーク豆田

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族の協力を得て金銭管理が出来る方には自己管理して頂き支払いも自力にて行なっている。家族よりお金を預かり事業所が管理している方でも、外出先で支払時には自分で支払って頂けるような工夫をしている。</p>			
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人の希望に沿って電話の支援は時間帯を確認しながら対応している。電話がかかって来た際も、スタッフルームであるが個室でゆっくり電話を楽しんでもらっている。友人や家族に絵手紙等のやり取りをしている方もおり、電話も自由にして頂いている。</p>			
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族より頂いた花を生けたり、余暇時間に製作した作品を飾るなど、居心地の良い空間を提供している。</p>	<p>広いベランダに自由に出ることができ、観葉植物やテーブルセットをうまく配置して、快適に暮らせるよう工夫している。地域の方からのいただき物や季節の花を飾り、ゆったりと穏やかな空間づくりで家庭的な雰囲気である。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下には長椅子を設置。季節による模様替えにより冬場は畳の間を用意しコタツを設置しており、各々横になり休養されたり思い思いの場所で寛いでもらっている。</p>			
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>“もう一つの我が家”をめざし、本人に馴染みの有る椅子や、小物、ソファなど各々、使いなれた物、思い出の品等を持ってきてもらい少しでも自宅と同じ思いで過ごしてもらうように工夫している。又、季節感の感じられるカレンダーや、家族やお孫さんの写真も一緒に飾ってもらっています。</p>	<p>馴染んだ椅子や小物などで落ち着いて暮らせるよう随所に心遣いがみられる。植物の好きな人は自分のベランダで花を育てている。障子からの光が優しい部屋となっている。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりを良く観察し、利用者の身体能力や出来る範囲を把握し、出来ることはあえて介助はせず見守り、難しい場合はさりげなく手を貸すよう心がけている。</p>			